

歴史展示室に新しい資料を展示します

1 常設展示室の展示替えについて

当館の歴史展示室は原始から近現代に至る香川の歴史を紹介する常設の展示室です。香川の歴史に関する展示室であるため、その内容が大きく変わることはありませんが、当館が収蔵する数多くの資料を積極的に活用し、豊かな香川の歴史を伝えていくために、定期的に展示替えを行っています。

今般、9月24日（木）に令和8年度2回目の展示替えを行いますので、お知らせします。

令和8年度の展示替え予定

歴史展示室 ①~~6月15日（月）~~ ②9月24日（木） ③12月下旬 ④3月15日（月）

2 展示替えを実施した展示室

香川県立ミュージアム3階 歴史展示室

3 展示替え資料点数

歴史展示室 46件 54点（複製品も含む）

4 主な展示替え資料

原 始：平形銅剣（弥生時代中期）

古 代：『菅家文草』^{かんけぶんそう}（江戸時代刊）

中 世：義経御坐船之図^{よしつねごさぶねのず}（江戸時代）

近 世：幕末世相狂歌「ないものづくし」（江戸時代）

近現代：地券（明治15年〔1882〕）、愛国イロハカルタ（昭和時代）



歴史展示室

5 開館時間と観覧料

開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

夜間開館日：午前9時～午後8時（入館は午後7時30分まで）

休 館 日 毎週月曜日、ただし11/9、16、23、12/7は開館

（月曜日が休日の場合は、原則として翌火曜日）、

10/16～21、11/17～19、11/30～12/2は臨時休館

観 覧 料 一般500円、団体（20名以上）400円

※高校生以下の方、香川県在住の65歳以上の方、障害者手帳・特定医療費（指定難病）受給者証・小児慢性特定疾病医療費受給者証等の提示者とその介護者の方は無料。

※特別展開催中は、特別展観覧券で常設展もご覧いただけます。

※「香川県民の日」（12/3）は観覧料無料

6 行事

ミュージアム・ショートガイド

当館職員が展示をワンポイントで解説します。要観覧券、申込不要。

10月11日（日）、11月21日（土）、12月19日（土） 各日10:30～（20分程度）

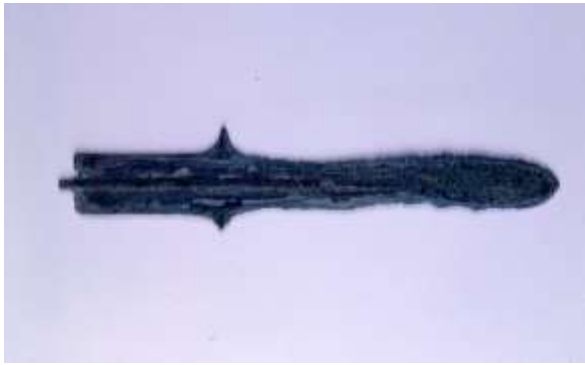
第2、第4土曜日には当館ボランティアによる歴史展示室の展示解説も実施しています

7 主な展示資料の概要

ひらがたどうけん
平形銅剣

弥生時代中期

当館蔵



主に瀬戸内沿岸部で使用された青銅製の^{さいき}祭器で、香川県内でも盛んに用いられた。本資料はさぬき市石田東で3口まとめて発見されたもののうち1口。^{とげ}棘状の突起の一方には、銅が回りきらず欠けた部分を、当時の技術で補った痕跡がある（^{ほちゅう}補^{さび}鑄）。現在は錆により緑色だが、製作当時は新品の10円硬貨に近い色をしていた。

よしつねごさぶねのず
義経御坐船之図

江戸時代

当館蔵

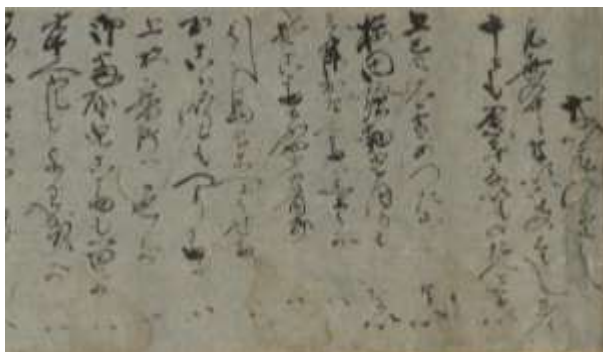


元暦2/寿永4年（1185）3月、^{だん}壇ノ^{うら}浦の戦いに敗れた平家一門は安徳天皇とともに海中に没した。三種の神器も一緒に海中に没し、^{じんぎ}剣は^{つるぎ}ついに見つからなかった。画中の人物は皆海中に目をやり、三種の神器を見つけようとしている。

ばくまつせそうきょうか
幕末世相狂歌「ないものづくし」

江戸時代

当館蔵



幕末の社会は外国とどのような関係を結んでいくかで大きくゆれ動き、加えて物価が上がるなど、人々のくらしは不安なものであった。そのような社会の様子を五七調のリズムでシャレを交えて呼んだ狂歌がさかんに作られた。本資料では冒頭に桜田門外の変がとりあげられている。

ちけん
地券

明治15年（1882）

当館蔵



香川郡宮脇村（現高松市）の田に対して発行された地券。地券は、地租改正の結果、土地の所有者に交付された。所有権の移転は裏面に記載されるようになっている。明治21年（1888）の第三次香川県設置まで讃岐地域を管轄していた愛媛県が発行したもの。